

目指す幼稚園像	家庭地域と連携し、明るく健康な幼児が育つ幼稚園
---------	-------------------------

重点目標	1. 幼児が遊びや活動に主体的に取り組むための教育活動の実施 2. 基本的な生活習慣が定着し、進んで行う子の育成 3. 家庭・地域に信頼される園づくり
------	-----------------------------------------------------------------------------------

達	A	ほぼ達成(8割以上)
成	B	概ね達成(6割以上)
度	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)
	E	よくわからない

学校自己評価					学校関係者評価			
年度目標					年度評価(2月14日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<p>・やりたい遊びを見つけられない幼児が増えてきている。</p> <p>・前年度までの新感染症予防の為に、異年齢児で交流する経験が不足している。</p>	<p>・保育内容の充実</p> <p>①健康な心と体 ③共同性 ⑥思考力の芽生え ⑨言葉による伝え合い</p>	<p>・新たな材料や廃材を出してみたり、片付けておいたりして、保育室内の環境設定に変化をもたせる。</p> <p>・学級全体の活動を通して、いろいろな経験を重ね、自信につなげていけるようにする。</p> <p>・異年齢児と一緒に体操をしたり、園庭で遊んだりする機会をつくる。</p>	<p>・やりたい遊びを見つけられない子は減少したか。</p> <p>・好きな遊びの中で、異年齢児と一緒に遊ぶ姿が増えたか。</p>	<p>・新しい遊具を時期によって出したり片付けたりし、環境に変化をもたせるようにした。</p> <p>・遊びのコーナーを充実させたり、運動遊びや制作など、学級全体の活動を重ねることで、一人一人がやりたい遊びを見つけて遊べるようになってきた。</p> <p>・園庭で一緒に遊んだり、防犯指導やお楽しみ会など、行事に3学年一緒に参加する機会をつくることができた。</p>	A	<p>・引き続き、幼児の興味関心を把握し、コーナー設定を充実させていく。</p> <p>・なかよしタイムやなかよし給食など、コロナ前の活動を復活させ、異年齢児との交流の機会をつくっていく。</p>	<p>・やりたい遊びを見つけられないという問題点に気付く教師の視点が大切。</p> <p>・コロナで失った3年間を取り戻すことはできない。すべてのことをコロナ前と同じに戻そうとすると教育現場に無理が出てくるので、今の状況の中でできることを工夫し、保護者に説明をしていく。</p> <p>・びよびよ広場を通して異年齢児の交流を行うことは、幼稚園の入園に</p>
2	<p>・衣服の着脱を自分でやろうとしなかったり、脱いだ服の始末をしなかったりする幼児が多い。</p> <p>・口や鼻を押さえずに咳やくしゃみをする幼児が多い。また、ティッシュを使って、自分で鼻水をかむことができない子が多い。</p>	<p>・基本的な生活習慣の定着</p> <p>①健康な心と体 ②自立心</p>	<p>・着替えのやり方を具体的に知らせたり、個別に指導したりしていく。</p> <p>・家庭では保護者に手伝ってもらっている幼児が多いので、幼稚園での生活の様子を知らせ、自分で出来ることを保護者に伝えていく。</p> <p>・イラストなどを活用して、鼻の正しいかみ方を指導していく。また、お便りで保護者にも周知していく。</p>	<p>・6割以上の子が、衣服の着脱を自分でしようとしていたか。</p> <p>・7割以上の子がティッシュを使って自分で鼻をかむことができるか。</p> <p>・咳やくしゃみの時に口や鼻を押さえる子が増えたか。</p>	<p>・着替えの場面で個々の状態に合わせて着替えのやり方を知らせたことで、自分で着替えられる幼児が増えた。また、保護者には学年だよりや懇談会などで子供たちの着替えの様子を伝え、家庭と協力して指導を行った。</p> <p>・紙芝居を使って、鼻水のかみ方を分かりやすく伝えた。</p> <p>・7割以上の子が、ティッシュを使って鼻をかむ方法を分かっているが、年少児は教師に手伝ってもらわないと鼻をかめない子がまだ多い。</p> <p>・咳やくしゃみの時に口や鼻を押さえる子は増えてきた。</p>	A	<p>・自分で着替えようとする姿を見守り、年齢に合わせた指導を行う。</p> <p>・感染症が流行しやすい時季や、花粉の時季に集中的に指導し、鼻をかむ習慣が定着するようにする。</p> <p>・ポケットにティッシュを入れておくことや、咳エチケットについても引き続き指導を行う。</p>	<p>・「先生やって」と人の助けを借りる力を育てていくことも必要である。</p> <p>・生活習慣を身に付けるためには家庭の協力を促していくことが大切。</p> <p>・幼稚園の先生からの教えは子供の心にずっと残っていくので、丁寧に伝えていってほしい。</p> <p>・身体感覚を育て、自分の体をコントロールする力を育てるためにも、鼻をかむことなど、一つ一つ取り上げて丁寧に指導していくことが大切。</p>
3	<p>・全園児がバス通園の為、保護者が来園する機会が少なく、園生活の様子が保護者に伝わりづらい。</p> <p>・地域の様々な人が気軽に幼稚園を利用できるような体制が整っていない。また、地域へ向けた幼稚園の情報が不足している。</p>	<p>・開かれた園づくり</p> <p>⑤社会生活との関わり</p>	<p>・保育参加の希望者を年間を通して募る他、保護者のボランティア活動を拡大する。(保育ボランティア、芋の苗植え、パパボランティアなど)</p> <p>・園のホームページやお便りに園の様子が分かる写真を多く掲載する。また、保護者がホームページを閲覧しやすいように園だよりや学年だよりQRコードを添付する。</p> <p>・地域の方に向けて、土日の園庭開放を再開する。</p> <p>・ホームページだけでなく、町の広報誌や公式LINEで幼稚園の情報を発信し</p>	<p>・新たな内容のボランティア活動を実施できたか。</p> <p>・アンケートで「幼稚園のホームページを毎月閲覧している」と答えた保護者が5割以上いたか。</p> <p>・土日の園庭開放を実施し、その情報を定期的に地域に発信できたか。</p> <p>・幼稚園の情報を、昨年度よりも多く、地域へ向けて発信できたか。</p>	<p>・今年度からの新たなボランティア活動は予定通り実施できた。</p> <p>・園だよりだけでなく、学年だよりにもQRコードを添付し、保護者や地域の方が幼稚園のホームページを閲覧しやすいようにした。</p> <p>・園の様子が分かるようにホームページに写真を多く載せ、更新をこまめに行った。</p> <p>・園庭開放について、園だよりにより年間5回掲載を行い、園だよりの回覧を通して、昨年度よりも地域に積極的な情報発信ができた。</p>	A	<p>・保護者のボランティアの機会をさらに増やしていく。</p> <p>・父親が参加しやすいパパボランティアの活動も検討していく。</p> <p>・学年だよりもホームページに掲載し、地域の方に広く情報を発信できるようにする。</p> <p>・園庭開放やびよびよ広場を実施していることが分かるように、幼稚園の入り口に掲示する。</p> <p>・滑川町公式LINEで園行事やびよびよ広場のイベントなどを周知する。</p>	<p>・就園させたい園として選ばれるためにはどうすればよいのか、挑戦している雰囲気を感じられる。</p> <p>・びよびよ広場は初めての親子が参加しやすいイベントを企画してほしい。</p> <p>・幼稚園内に行事の写真を掲示してあるのは、園児も保護者も見ることができるので、良い取組だと思う。</p> <p>・町の公式LINEの活用については「滑幼のホームページを更新しました」と発信することから始めるとうい。</p> <p>・地域に向けて園をPRしていくのは難しいことだが、園だよりの回覧を活用するなど、様々な方法を工夫していく。</p>



